

環境ねほりはほり

～私たちが住む岩手のこと～



いわて水と緑の交流フォーラムを開催しました！

2025年11月29日（土）「いわて水と緑の交流フォーラム」が、盛岡駅(もりおかえき)西口にある、キオクシア アイーナで開催(かいさい)されました。

「いわて水と緑の交流フォーラム」は、子どもと一緒に(いっしょ)に遊びながら、自然環境(しぜんかんきょう)と森・川・海のつながりについて、楽しく学ぶフォーラムです。

「工作体験コーナー」や「カードゲームコーナー」、「クイズラリー」や「県内の環境に関わる活動団体・企業(きぎょう)などのブース展示(てんじ)」もあり、子どもから年配の方まで、多くの来場者が訪(おとず)れました！

その他にも、環境保全活動知事表彰式(ひょうしょうしき)や、地域(ちいき)で活躍(かつやく)する環境保全団体のリーダーが集まり、「水辺から学ぶ生物多様性」をテーマとしたパネルディスカッションも行い、活発な意見交換(いけんこうかん)が行われました。



岩手県3R推進キャラクター
「エコロル」



岩手県環境カウンセラー協議会
「発電体験コーナー」



環境学習交流センター
「サイの折り紙作り」と
「木の葉の工作」体験コーナー



MCL盛岡ペットワールド専門学校
カードゲーム「クマと僕らの物語」
コーナー



環境保全活動知事表彰式 受賞者のみなさん



パネルディスカッションの様子





いわて 環境学習応援隊

いわて環境学習応援隊は、地球や学校などで環境学習をする際の見学の受け入れなど「体験的なプログラム」や「講師派遣」を通して、皆さんの学習をサポートしてくれる企業団体です。

株式会社 アマタケ

「おいしい。きれい。」をつくる会社をスローガンに、会社の代名詞(だいめいし)でもあるサラダチキンから化粧品まで販売(はんばい)している株式会社アマタケ取材しました。

鶏肉(とりにく)商品生産について

安心して食べていただくため、一番気をつけているのは、工場内の殺菌(さっきん)です。株式会社アマタケ(*以下「アマタケ」)では、鳥をヒナから育て食卓(しょくたく)までを考え、全ての鳥を抗生物質、合成抗菌剤(こうせいこうきんざい)を一切使わず生育出荷しています。

CO₂排出(はいしゅつ)を意識

2009年には、ふ化から出荷まで、鳥一羽あたりのCO₂排出量(はいしゅつりょう)を計算しています。

CO₂排出量を意識するようになってから、産業用の温水、冷水ヒートポンプを使うようになりました。燃料は主に電気なので化石燃料を使わなくなったことが、CO₂削減(さくげん)につながっています。

これからの目標

会社にとって一番大切なものは、「人」です。アマタケで働く人たちが、楽しく働ける職場であること、自慢(じまん)できる会社であること、そしてアマタケの商品を愛してくれる三つのことが大切です。

2026年3月1日から「岩手三陸たのはた鴨」と名前を変え田野畑村との第三セクター方式の地域連携会社(ちいきれんけいがいしゃ)による、新ブランドを手掛けていきます。

これからも環境にやさしく安心を届けてくれる「株式会社アマタケ」の躍進(やくしん)を期待(きたい)しています。



安心安全の食品を食卓へ

お話ししてくれた人

環境・施設管理部部长
三浦 英和(みうらひでかず)さん



見学について インフルエンザなどの予防のため、夏場のみ見学を受け入れています。

株式会社アマタケ(岩手オフィス)

☎ 0192-26-5205(代)

〒022-0003
岩手県大船渡市盛町字二本杵5番地



HPはこちらからどうぞ

大槌町(おおつちちょう) 「ミズアオイの池をみんなで守る会」



第14回クボタ・毎日地球未来賞(※)、一般(いっばん)の部(ぶ) 準大賞「クボタ賞」を受賞された「三陸自然学校大槌」取材しました。

※毎日新聞社が主催(しゅさい)、「食料」「水」「環境」の問題解決に取り組む団体・個人に贈(おく)られる賞

ミズアオイとは

ミズアオイは、水田雑草とも言われ、全国の湿地や水田など生育していましたが、現在は絶滅危惧種に認定されています。

ご指導いただいている岩手県立大学の島田直明先生は、「ミズアオイは、昔から日本にあるもので、歴史を調べると、弥生時代(やよいじだい)ごろに中国からお米と一緒に(いっしょ)に、日本に渡ってきたと考えられます。大槌町にも昔は、たくさんのミズアオイが生えていたそうです。1980年代には、雑草として扱われ、除草剤(じょそうざい)で人工的に少なくなっていました。また、田んぼを住宅にするなどして土地が埋(う)め立てられました。2011年の東日本大震災(ひがしにほんだいしんさい)では、津波で住宅が流されたと同時に土の中に埋まっていた種が波の刺激を受け、発芽したと考えられています。最近では、除草剤に抵抗(ていこう)があるもの、元々あった自然のままのもの2種があり、大槌で発見されたものは、弥生時代に日本にあった後者の品種と考えられています。だから、震災遺構(しんさいいこう)の植物として2つの意味を持っている貴重なものなのです」とお話し下さいました。小さな命に大きな歴史を感じました。



表彰状と盾



岩手県立大学 島田先生



土起こしをする会のみなさん

昔は食べていた！

三陸鉄道大槌駅近くの、郷土財活用湧水(きょうどざいかつようゆうすい)エリアで、ミズアオイを育てています。

春に発芽させるために、池の土を掘り起こします。その後、夏のお盆の頃に可憐(かれん)な紫色の花をつけます。ミズアオイは、一日花なので、その日咲いている花は、その日の朝に咲いたものなのです。花が終わると茎(くき)の途中から自然に曲がり、首を垂(た)れるように水の中に種を落とします。このように次の年もまた新しいミズアオイが、同じ場所で育っていくのです。

昔、ミズアオイは、日常的に食べられていたそうです。今回は、茎の部分をつかった、「みそ漬けおにぎり」と葉っぱの「天ぷら」をいただきました。くせのない味で食べやすかったです。

これからも、大槌で育ててきた「ミズアオイ」を大切にしていきたいと思えます。皆さんもぜひ「ミズアオイ」を見に来てくださいね。



試食をする大槌高校のみなさん

活動の様子はこちらからどうぞ



わんこ節電所 トピックスページ



「親子で植林体験in奥中山」

～北上川源流公園



開催日：2025年6月28日（土）

スケジュール：植林体験→お弁当

→北上川源流（げんりゅう）公園散策（さんさく）

《植林体験》



バスに乗って植林体験の会場に到着(とうちゃく)。あたたかいえがおで、株式会社柴田産業(しばたさんぎょう)（*以下「柴田産業」）のスタッフに迎(むか)えられました。はじめに、いわてこどもエコクラブ担当(たんとう)の柴田産業のスタッフに教わり、植林体操をしました。ひざの曲げのばし、手首、足首、腰を動かしました。長い時間バスに乗ってきた体をほぐしていくと気分もすっきりしました。

いよいよ植林体験です。柴田産業のスタッフから指導をうけながら、一生懸命(いっしょうけんめい)に行いました。



植林体操！1.2.3！



植え方を教わりました



全身で根元をトントン

山の斜面(しゃめん)の赤い印のところに穴(あな)を開けて、からまつの苗(なえ)を植えて土をかぶせ、手で苗の上部をおさえ、根元(ねもと)を足でしっかり植え付けました。ちいさな子どもたちは、全身で根元をトントンして植えました。あとは、自然にまかせて育つのを見守るそうです。

がんばって、全部で15本も植えた子がいました。すごいね！



植林バッグでがんばるぞ！



柴田産業特製手づくり弁当

閉会式(へいかいしき)では、いわてこどもエコクラブ交流会参加の保護者の方が「自然のゆたかさ、美しさが印象的でした。土に穴をほることや、苗(なえ)をうえるところが楽しかった。これからもこのようなイベントに参加したい」とあいさつされました。ケガもなく、いわての自然を感じながらの楽しい植林体験でした。おいしいお弁当もありがとうございました。ご協力いただきました柴田産業の皆さんに感謝します。



みんなで植えた木が大きくなりますように



えがおで集合写真

《北上川源流公園》



続いて、北上川源流公園の奥(おく)にある御堂観音(みどうかんのん)に向かいました。

御堂観音に続く道は、木々で少し暗く上り坂もありました。参加した中学生のお兄ちゃんに小さい子が手をつないでもらうと、ボクもボクもとみんなでお兄ちゃんに手をつないでもらって楽しくあるきました。本堂の千手観音像は、南部氏がここを領地にした時に守り本尊(ほんぞん)として寄進(きしん)したとされています。交流会参加者の健康を願いました。



健康をお祈りしました



「前九年の役(ぜんくねんのえき)に勝利した源義家が「弓弭」で掘って湧き出した清水

御堂観音の奥の北上川源流の弓弭(ゆはず)の泉を見学しました。

その昔、源義家(みなもとのよしいえ)が天に向かって放った矢の部分の弓弭でつくると清水がでてきたと言われていた泉です。

涌(わ)き水がしたたり落ちる音を聞き、落ちて水面が動くところを観察し、北上川源流を体感しました。

北上川の大きな流れの元は、この場所の「この一滴(いってき)」から、はじまっているのですね。感動！！

《いわてこどもエコクラブはこちらから》

今回も楽しいエコクラブ交流会となりました。皆さんも「いわてこどもエコクラブ会員」になって、自然の大切さ、環境のことなどを楽しく学びませんか。

いわてこどもエコクラブ事務局 019-606-1752 (環境学習交流センター内)

企業紹介



アートを通じて、意識・社会に変革を！ 「ヘラルボニー」がひらく未来



HPIはこちらからどうぞ

「株式会社ヘラルボニー」とは

「株式会社ヘラルボニー」は、双子(ふたご)の兄弟松田崇弥(まつだたかや)さんと文登(ふみと)さん(岩手県出身)が、2018年に設立した会社です。

その原点は、ふたりの4歳年上の重度の知的障がい(ともな)う自閉症(じへいしょう)の兄、翔太(しょうた)さんの存在でした。崇弥さんは、世間の偏見(へんけん)や先入観を変えられる「福祉を仕事にしたい」と思っていました。2015年、崇弥さんが、母のすすめにより、花巻市にある「るんびにい美術館」を訪(おとず)れて知的障(ちてきしょう)がいのある作家(さっか)のアート作品に心を打たれました。この素晴らしい作品たちをもっと多くの人にとどけたい、この作品に見合う報酬(ほうしゅう)が得られる仕組みを生み出したいという思いから、会社をたちあげました。

社名は、翔太さんが小学生の時に、自由帳に書いてあった謎(なぞ)の言葉「ヘラルボニー」にしました。

現在は、300名に近い作家と契約して、「世の中に唯一つのアート」を送り出しています。



伝統技術と融合(ゆうごう)したり岩手などの企業と協力しています



盛岡駅構内にも沢山のアートがあり、目をたのしませてくれます



「ヘラルボニー」ではたらく

組織デザイン部の山本しずくさん（2023年に入社）にインタビューしました。

Q こんにちは。山本さんはどちらのご出身ですか。
なぜ、岩手で働こうと思われたのですか。

こんにちは。ヘラルボニーは、インターンシップに参加しました。兵庫県出身なのでこの会社に入社が決まって、あったかい服を買いにいきました（笑）
実は、私も人とちょっと違(ちが)う部分があって、こどもの頃(ころ)は「変だ」とか言われたものです。ヘラルボニーは、「個の多様性を大事にしていくこと」「障がい」に対する無意識な偏見やネガティブな思いを社会側から変えていく」という思いに強く惹かれて入社しました。



Q 個の多様性を大事にするって素敵ですね。

そうなんです。子どもの頃、自分の中に障がいのある方に対するネガティブな思い込みがあったことに気づきました。自分の中にある、障がいのある方に対するネガティブなもの、例えば「かわいそう」とか「普通(ふつう)じゃない」と思う気持ちは、社会全体の意識を変えないと、変わらないんです。
私は中学生の頃に「開発途上国」に住む同い年の女の子の話を聞いて、生まれた場所が違うだけで女の子は勉強ができないと知った時に、社会の不平等さを感じて、将来はそこを変えていきたいと考えていました。その時に、真正面から向き合っている「ヘラルボニー」を知ってかっこいい、私も一緒にやりたいと思いました。『ヘラルボニー』のミッションは、『**異彩を、放て。**』
障がいの有無にかかわらず、一人ひとりが発揮(はつき)する可能性の扉(とびら)を解き放つことで、とても魅力的(みりよくてき)です。

Q これから、どのような仕事をしていきたいですか

組織デザイン部で働いています。組織の在り方を根本からデザインするという考えに基づき、社員一人一人が安心して幸せに働ける環境にしたいと思っています。それは、作家さんも、カフェで働く人も、だれひとり取り残さない社会を持続していくことの一步につながると思います。

私個人としては、将来的(しょうらいてき)に、JICA(独立行政法人国際協力機構)とヘラルボニーとの連携プロジェクトに関わることで、グローバルな意識・社会の変革を目指して挑戦していきます。

多様な個を大切にする会社ヘラルボニー、岩手が誇る世界にはばたく会社の一つです。これからも地元企業やそこで働く人をおうえんしていきます。





環境学習交流センター 岩手県地球温暖化防止活動推進センター



環境学習交流センター・岩手県地球温暖化防止活動推進センターは、キオクシア アイーナ いわて県民情報交流センター5階にあり、環境について学びたい方、活動したい方のサポートや、情報発信そして岩手県内の地球温暖化防止に向けた取組をサポートしています。

岩手県環境アドバイザー・いわて地域脱炭素推進員の派遣

県民が開催する地球温暖化や環境についての研修会などに、岩手県環境アドバイザー・いわて地域脱炭素推進員の派遣を行っています。



講師派遣の様子



派遣申込など詳しくはこちらをどうぞ

講師派遣利用者の声

推進員、アドバイザー派遣をご利用している方に伺いました



ご利用者
特定非営利活動法人
紫波みらい研究所
橋浦律子(はしうらりつこ)さん

お料理教室の講師派遣を利用しています。材料を残さず使うアイデアを教えてください。派遣をきっかけに、食品ロス削減にむけて、楽しく実行できていると思います。派遣制度は、ぜひたくさんの方のみなさんに知ってもらいたいです。



情報発信

岩手県内の環境に関する情報やイベント情報を発信しています。



地球温暖化情報や補助金情報はこちらからどうぞ



わんこ節電所



イワテエコ



センターでは大人も子どもも、見て、触(ふ)れて、楽しみながら学べる環境に関する展示を行っています。毎月の展示やイベント情報発信をしています。

お問い合わせ

環境学習交流センター
岩手県地球温暖化防止活動推進センター

TEL 019-606-1752
FAX 019-606-1753
MAIL eco@aaina.jp

〒020-0045
岩手県盛岡市盛岡駅西通1-7-1
キオクシア アイーナ・いわて県民情報交流センター5F

